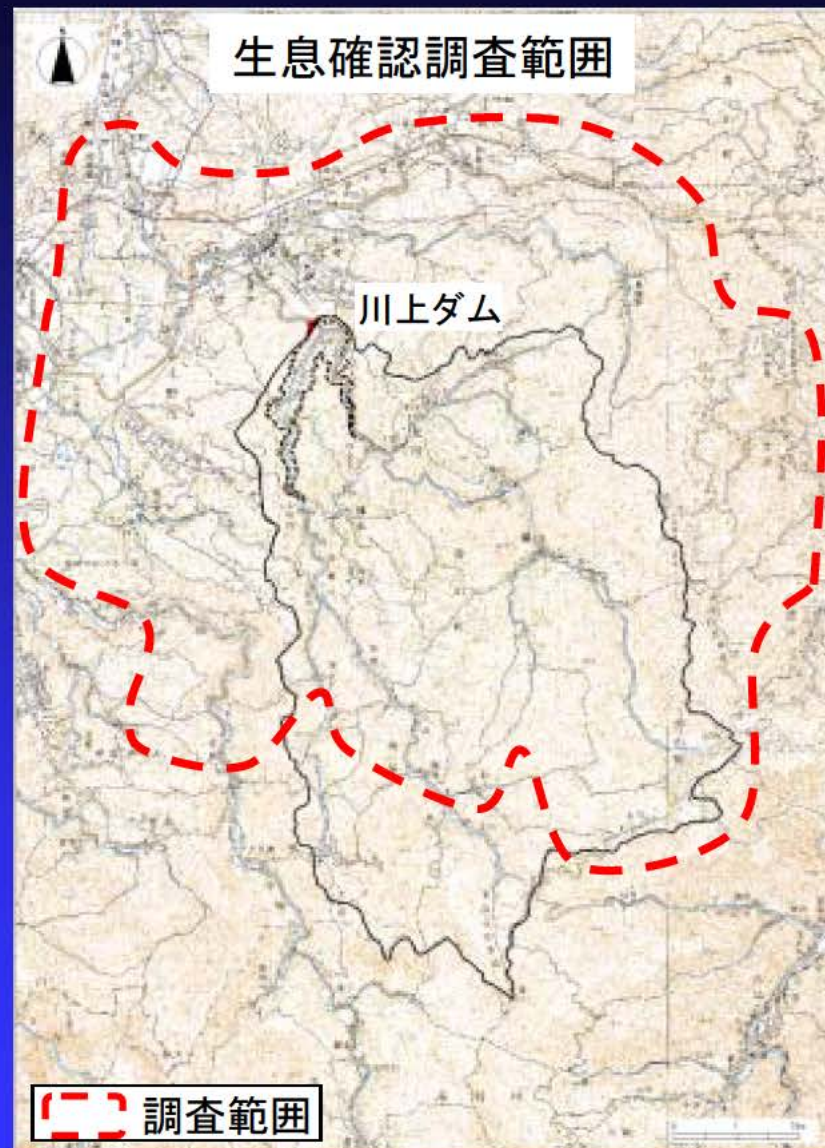


■上位性(陸域)の現況

■オオタカ

平成8年度より調査を開始し、平成14年度までに調査範囲内においてオオタカが生息していることを確認しています。

また、クマタカ、ハチクマ等の飛翔も確認しています。



生物保護の観点から詳細な位置の表示は行いません。

■上位性(陸域)に及ぼす影響

■オオタカ

ダム及び貯水池等の出現により行動圏内が改変されることから、繁殖活動及び採餌活動への影響が考えられます。

■上位性(陸域)の保全対策

■オオタカ

事業予定地周辺に生息するオオタカについては、繁殖活動への影響が考えられたため、以下の保全対策を実施しています。

- ・付替県道ルートの見直し
- ・発生土受入地の位置見直し
- ・繁殖期における立木の伐採制限

今後もモニタリングを行うとともに、主に利用している餌場等の保全を行います。

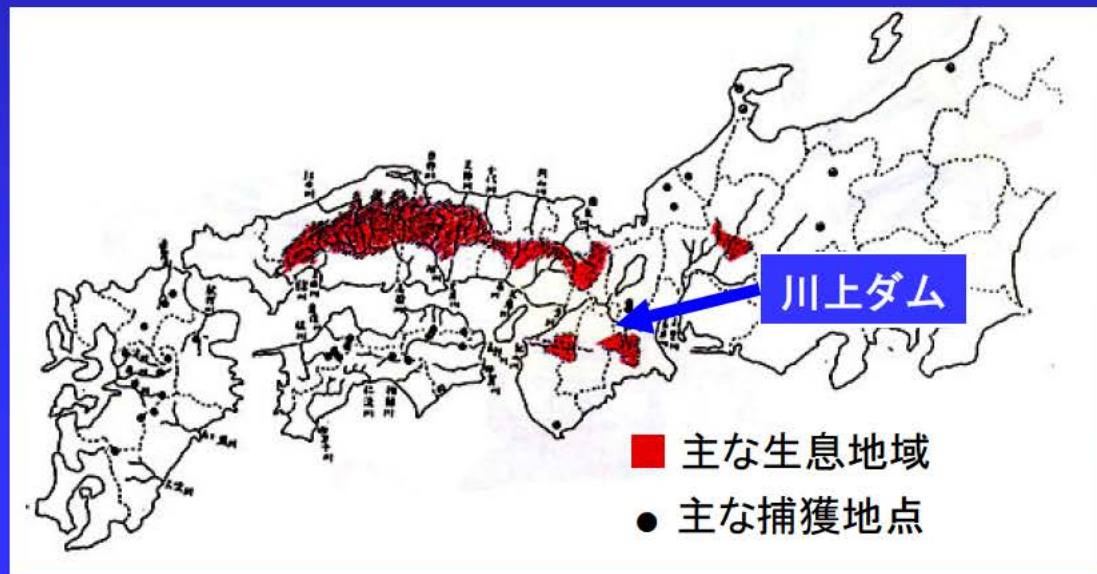
■上位性(河川域)の現況

■オオサンショウウオ

- ・昭和27年 特別天然記念物に指定
- ・現存する世界最大の両生類
- ・日本固有種
- ・準絶滅危惧種*(環境庁RDB 2000)

*現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種

- ・岐阜県以西の本州と四国、九州に自然分布

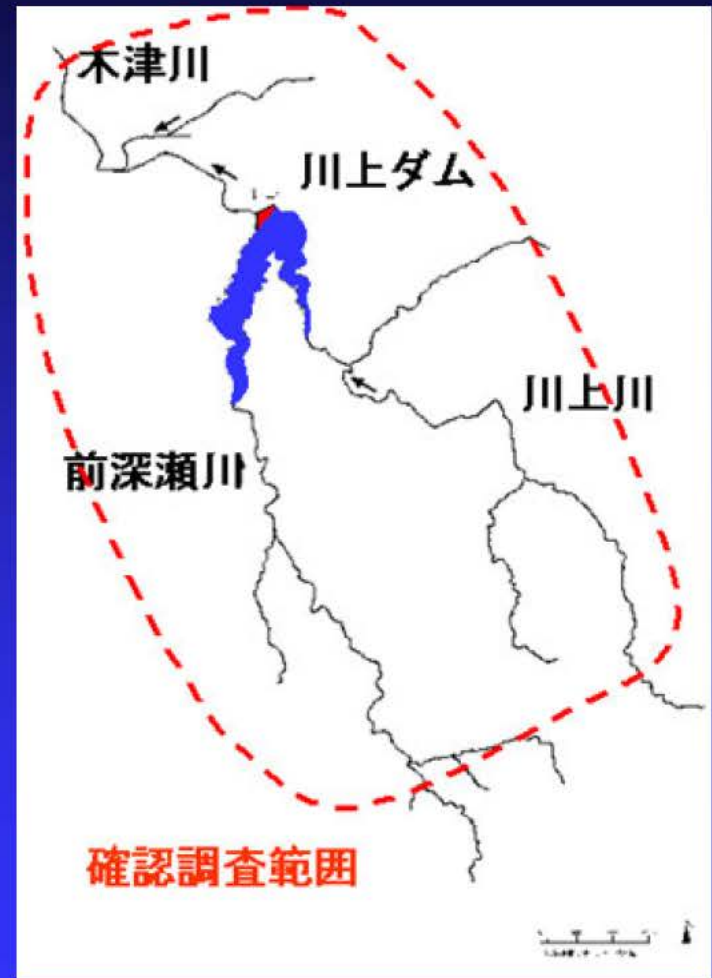


オオサンショウウオの分布(環境庁 1978)

■上位性(河川域)の現況

■オオサンショウウオ

前深瀬川及び木津川
川において平成8年
度より調査を開始し、
平成14年度までに
三重県の調査結果
も含め277個体の
生息を確認し、貯水
池の予定地内では8
0個体を確認してい
ます。



生物保護の観点から詳細な位置の表示は行いません。

■上位性(河川域)に及ぼす影響

■オオサンショウウオ

生息環境の消失及び変化が発生することから、オオサンショウウオの繁殖活動への影響が考えられます。

◆ダム及び貯水池の存在

- ・生息環境の消失
- ・移動の妨げ

◆工事中的影響

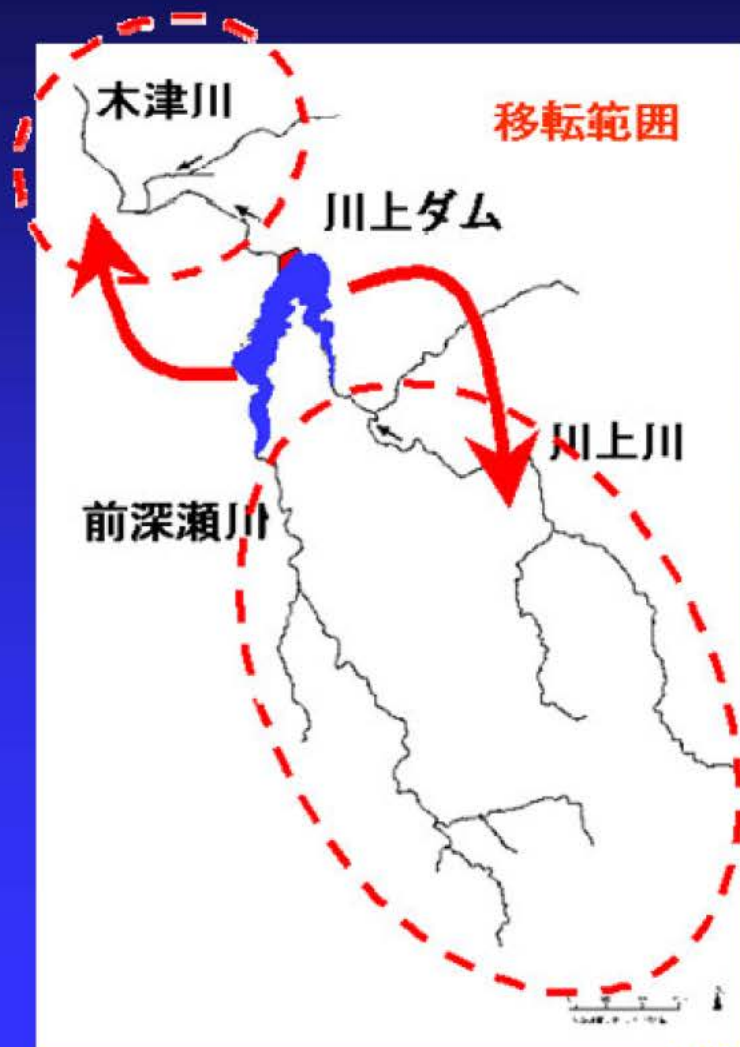
- ・濁水等に伴う水質変化による生息環境の変化

■上位性(河川域)の保全対策

■オオサンショウウオ

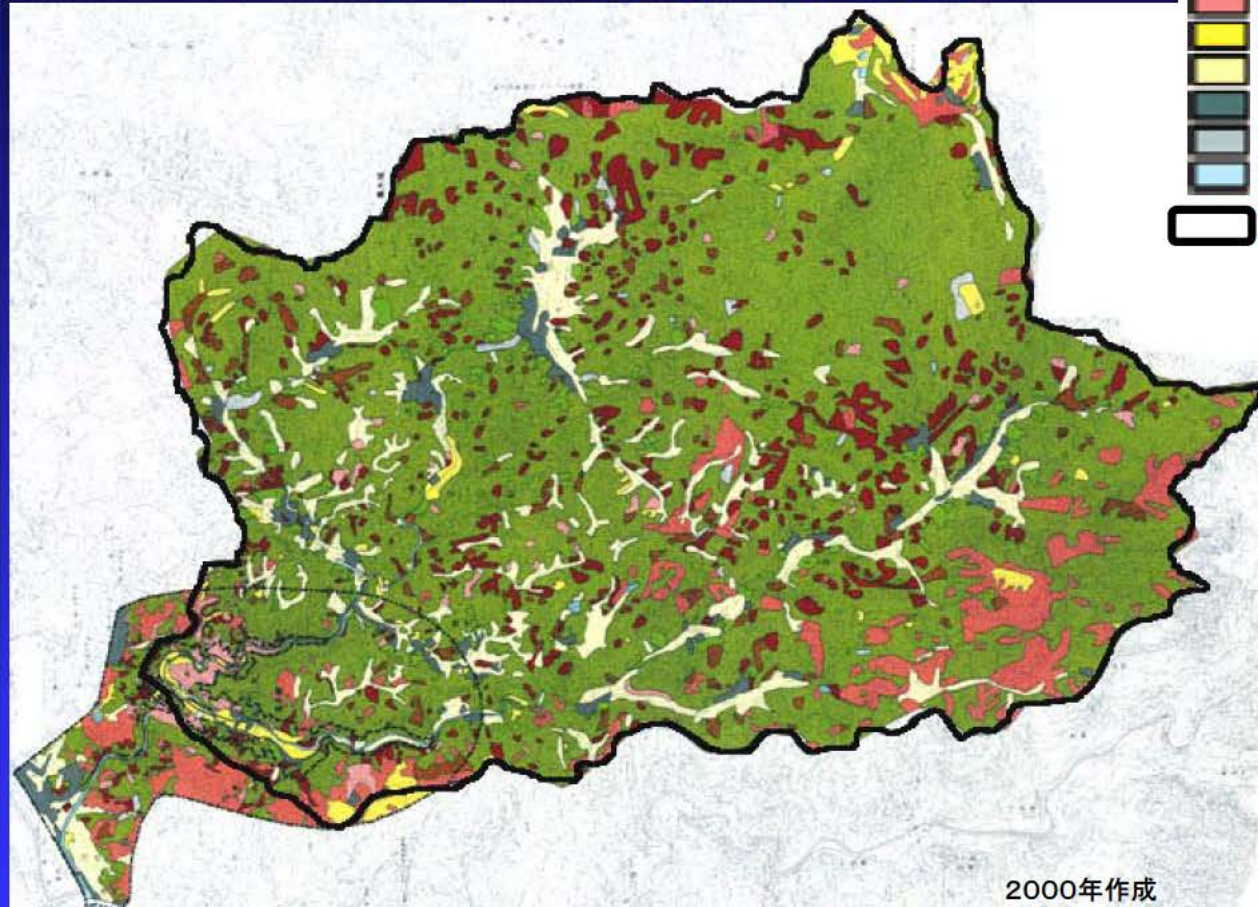
平成13年度に8個体の移転試験を行い、内3個体を再捕獲し定着を確認しました。

また、今後は人工巢穴の設置などの移転先の環境改善を行い、貯水池予定地内のオオサンショウウオを移転するとともに、**モニタリング**を行います。



■ 典型性(陸域)の現況

川上ダム流域の植生図



落葉広葉樹	7.7
アカマツ林	6.6
スギーヒノキ壮齡林	66.0
スギーヒノキ幼齡林	2.9
竹林	1.8
伐採植生	1.3
草本植生	2.2
耕作地	8.6
人工構造物	2.0
人為裸地	0.5
開放水面	0.4
計(ダム集水域)	100%(計54.7km ²)

川上ダム流域では、スギーヒノキ壮齡林、落葉広葉樹林、アカマツ林が陸域の典型性を示します。 110

- 典型性(陸域)に及ぼす影響
- 典型性(陸域)の保全対策

陸域の典型性を示すスギーヒノキ壮
齡林、落葉広葉樹林、アカマツ林につ
いては、現在調査中ですが、今後も影
響・保全対策について調査・検討しま
す。

■典型性(河川域)の現況

河川名	種数
淀川	71
木津川	42
ダム事業区域周辺	28

出典:「川上ダム魚類調査結果」及び「平成11年度河川水辺の国勢調査年鑑(魚類・底生動物調査)[河川版]」

●ダム事業区域周辺で確認されている魚類

スナヤツメ、ウナギ、コイ、ギンブナ、フナ類、ハス、オイカワ、カワムツ類、タカハヤ、モツゴ、ムギツク、タモロコ、カマツカ、キンギョ、ズナガニゴイ、ニゴイ、イトモロコ、ドジョウ、シマドジョウ、ギギ、ナマズ、アカザ、アユ、イワナ類、アマゴ、カジカ、カワヨシノボリ、ヨシノボリ類

※放流魚も含まれています。

川上ダム周辺における回遊魚としては、ウナギ、アユ、アマゴ、カジカの4種類が確認されています。

- 典型性（河川域）に及ぼす影響
- 典型性（河川域）の保全対策

魚類については、現在調査中ですが、
今後も影響・保全対策について調査・
検討します。

■今後の調査・検討について

これまでダム周辺における動物・植物等の調査を実施しており、今後も生態系保全のために、上位性ではオオタカ・オオサンショウウオ、典型性では、陸域・河川域の自然環境を調査し、影響・保全対策について検討していきます。

ま と め

1. 狭窄部の開削は当面できないことから、既往最大規模の洪水による岩倉峡上流上野地区の浸水被害を解消するには、上野遊水地と新たな貯留施設が必要である。
2. 新たな貯留施設として遊水地の掘削拡大案等について検討したが、多数の地権者の合意を得ることは実態として不可能であり、早期の浸水被害解消対策としては現実的に実現可能な方策として川上ダム建設が有効である。
3. なお、川上ダムは、下流部の浸水被害を軽減する効果がある。

今後、

調査・検討しなければならない事項

1. 貯水池規模の見直し並びに貯水池運用の変更を行う場合は環境等の諸調査。
2. 土砂移動の連続性を確保する方策の検討。
3. 利水について、早急な水需要の精査確認。